

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和元年9月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■ほうれんそう 産地基盤強化プロジェクトチーム本部委員会開催

近年、生産者の高齢化や雇用不足等により、ほうれんそうの栽培面積・出荷量は減少している。このような状況の中、今年度、生産者、関係機関（JA、市、県）が一体となり「飛騨ほうれんそう産地基盤強化プロジェクトチーム」を設置し、労力確保・担い手関係、作業受託・共同化、機械化・省力化の課題別に検討することとした。8月23日（金）には本部委員会を開催し、ほうれんそうの調製作業を外部委託している他県の事例や、軟弱野菜調製機の現地への導入状況等について情報共有した。

農業普及課では、プロジェクトチーム活動の一環として随時、情報収集・調査を進め、飛騨ほうれんそう産地の基盤強化につながる対応策を提案していく。



【軟弱野菜調製機の現地調査】

### 多様な担い手づくり

#### ■担い手 飛騨高山就農体感ツアーを開催

高山市就農支援協議会では、9月7日（土）～8日（日）に飛騨高山就農体感ツアーを開催し、関西・関東方面から合計11名が参加した。

これは、広く市内の農業や暮らしを農業者との交流、農業体験を通して、市内での就農イメージを描いてもらう事により就農移住につなげ、人口増加及び農業の発展に寄与することを目的としている。

トマト新規就農者、長期研修生、トマト選果場等の視察やトマトの収穫作業も体験し、特徴ある内容のツアーで、移住後農業経営を考えている参加者もいて、ツアーの成果が期待される。

農業普及課では、関係機関と連携しながら就農希望者の面談～研修、就農後の経営安定まで、今後も継続して支援していく。



【熱心に話を聞く参加者】

## 売れるブランドづくり

### ■夏秋トマト トマト部会のグループ活動で3Sシステム視察研修会実施

高山蔬菜出荷組合トマト部会のグループ活動を9月4日（水）、9月11日（水）に行い、中山間農業研究所で開発され高山市内で現地実証が進められている、夏秋トマト「3Sシステム」の視察研修会を行った。

研修会では施設の特徴やメリットなど説明し、特に8月の内に単収15トンを超えている実績は、土壌病害に悩む生産者から大変魅力的であると感想が多く聞かれた。

今後、全体の研修会でも実績の情報共有を図っていく。



【研修会の様子】

### ■夏秋トマト 飛騨蔬菜出荷組合トマト部会 統一ほ場審査開催

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会では、収量が不安定になりがちな秋期において、適切な管理を促すことや優良栽培事例を模範とした栽培技術の向上を目的とした統一ほ場審査が9月20日（金）に開催された。7つの地区でそれぞれの選考方式で選出された代表圃場（7ヶ所）を関係機関（全農ぎふ、JAひだ、県）職員が巡回し、トマトの品質や葉の健康度、圃場衛生環境等の項目について評価を行った。

審査対象となった圃場は栽培管理が行き届いており、病害虫の発生は少なく安定した着果があり高い収量性が確保されていた。

農業普及課では、優良圃場における栽培管理上のポイントを把握するとともに、地域の生産者にそのポイントを踏まえた栽培技術支援を行い、産地全体のレベルアップにつなげてゆく。



【ほ場を審査する審査員ら】

### ■夏秋トマト 飛騨トマト中間目揃え会スタート

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会では、後半の出荷に入ったことから、出荷規格の目合わせをしっかりと行うため、各地区で中間目揃え会が開催された。

8月30日（金）、各地区に先立ち、高原蔬菜出荷組合トマト部会で中間目揃え会が行われ、着色や規格の確認を行った。

農業普及課では、灰色かび病の防除の徹底や下葉かき等通気性の確保、着色促進対策について研修を行った。

今後も、高単価が期待される秋季に、少しでも多く出荷できるように支援を行っていく。



【規格を確認する生産者達】

## ■ほうれんそう 高山ほうれんそう研究班中間検討会

8月29日(木)、高山蔬菜出荷組合のほうれんそう研究班が中山間農業研究所で中間検討会を開催した。研究班員が現地で取り組んでいる遮光資材や品種試験について検討した後、中山間農業研究所内の研究ほ場を視察した。

中山間農業研究所では近年現地で問題となっている雑草「ゴウシュウアリタソウ」や、遮光資材の内張等高温対策に関する研究等について説明を受けた。研究班員からはハウレンソウケナガコナダニに関する研究をさらに進めてほしいと要望があった。

農業普及課では、研究機関の成果を現地に普及させるため、今後も研究班と連携し普及活動を行っていく。



【内張遮光の研究ハウス】

## ■宿儺かぼちゃ 宿儺かぼちゃ品評会を開催！

飛騨地方の特産物である「宿儺かぼちゃ」の今年の出来映えを競う品評会が9月8日(日)に開催された。今年で15回目となる本会には、一般部門、大物部門、ユニーク部門に計69点が出品され、うち一般部門と大物部門について、大きさ・揃いのよさ、外観品質などを飛騨農林事務所長、農業普及課長、市場関係者らが審査した。

また、入賞した宿儺かぼちゃは、10日(火)に高山市公設卸売市場にてセリ販売を行い、最高で1本10,000円の値がついた。

農業普及課では、今後も安定生産、品質向上等に向けた宿儺かぼちゃ研究会の取り組みを支援する。



【来場者に説明する研究会会長】

## ■水稲 大忙しの秋、収穫作業順調に進む

飛騨地域では、9月上旬から水稲の収穫作業が本格的に始まった。今年は梅雨時期の低温や日照不足で生育の心配もあったが、出穂期以降は天候に恵まれ、収穫時期は平年並～やや早くなった。早生品種の「たかやまもち」「ひだほまれ」から順次収穫が行われ、現在は「コシヒカリ」で収穫が行われている。

農業普及課では、各地域に設置したコシヒカリの水稲基準ほや食味向上実証ほ、酒米肥料試験等で刈取調査を行い、今年の収量や品質を確認するとともに、次年度の指導資料として活用する。



【実証ほ等で収穫調査】



## ■白川村美味しい米づくり研究会 **コンクール出品に向けてほ場を選定**

今年7月に発足した白川村美味しい米づくり研究会は、10月末に開催される地域の食味コンクールに向けて、出品候補となるほ場の選定を9月18日（水）に行った。発足時に指導者に委嘱した鍵谷中山間農業研究所長を招へいし、会員のはほ場を巡回し良食味が期待できそうなほ場を選定した。会では米・食味分析鑑定コンクール国際大会での入賞を目標としており、地域の食味コンクールを国際大会の前哨戦と位置づけている。



【鍵谷所長による  
ほ場の診断】

農業普及課では、村役場の担当者とともに鍵谷所長に同行し、収穫や出品用試料の調整について指導を行った。今後も村役場と連携し、試料の調整等に協力して食味コンクールでの上位入賞に向けて支援を継続していく。

## ■ヤマブドウ **収穫前調査を実施**

9月13日（金）、ヤマブドウの収穫を前に、高山市内の生産者はほ場を巡回調査した。

当日は、生産者と関係機関が各園地における本年度産果実の生育状況を確認した。調査には、新規栽培希望者も同行し生産者からの意見を聞き、栽培状況を確認するなど、自身の具体的な営農方法について知見を収集した。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、ヤマブドウの生産と産地振興を支援していく。



【収穫前調査の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■土地利用型農業 **清見営農組合コンバイン稼働会議**

8月30日（金）、高山市役所清見支所で清見営農組合員・農協・農業普及課計10名が出席して清見営農組合コンバイン稼働会議が開催された。清見町は町内の水田作業の受託を町内住民で構成される清見営農組合が一举に請負う体制が確立している。本会議は今年の水稲の生育に合わせた地区別のコンバインの稼働体制・稼働日の設定、粃の運搬体制、ライスセンターの受入れ日の設定等について検討された。農業普及課からは町内7ヵ所での生育調査結果により地区別の成熟期を予測し、収穫適期を示し、稼働日設定の根拠を示した。今年は成熟期も平年並みになると予測された。また出穂期後のカメムシ防除について、品種別の防除法および、新たに3地区で始めたラジコンヘリ防除により軽減することができた。今後は、さらに効果的となる防除の方針を検討することとする。